

M9.0(東北地方太平洋沖地震) = M8.4(東北地方太平洋沖地震)?

3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、日本の観測史上最大のM(マグニチュード)9.0を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ1000年に一度の超巨大地震と言われていますが本当にM9.0もあつたのでしょうか?

私たちが経験した阪神大震災とは地震のタイプ(阪神大震災の直下型地震と東日本大震災の海溝型地震)が違いますが、阪神大震災のM7.3の揺れで多くのビルや高速道路が倒壊したこと比べると1000年に一度と言われる超巨大地震にしては揺れ(地震)による被害が少ないように思います。

ちなみにマグニチュードは、震源から放出される地震波のエネルギーの大きさを表したもので、マグニチュードが0.2大きくなるとエネルギーは約2倍になると言われています。従って計算上では阪神大震災のM7.3とM9.0では350倍以上ものエネルギーが放出された地震ということになります。

そこで気象庁の発表したM9.0を調べてみると、東日本大震災以前のマグニチュードとは尺度が異なっていることがわかりました。これまで日本ではマグニチュードと言えば気象庁マグニチュード(Mj)という尺度が通常使われてきましたが、なぜか東北地方太平洋沖地震では、当初気象庁マグニチュードでM7.9と発表していたものを何回か訂正するうちに、地震発生2日後の発表ではモーメントマグニチュード(Mw)という尺度を使ってM9.0(気象庁マグニチュードではM8.4)と発表したのです。

福島原発事故は「想定内」の人災だ!

なぜ気象庁は、通常使っていた気象庁マグニチュードからモーメントマグニチュードに変えたのでしょうか?

その答えは、東日本大震災でこれまでの大地震・大震災と何が違うかを考えてみればわかってきます。これまでの大地震と違う点は被害の大きさの違いがありますが、なんとと言っても原発事故であることは誰しもが認めるところでしょう。

つまり原発事故に関して、M8.4では想定できる地震であつたから、見かけ上M9.0にすることで想定外の天災だったとして国民をだまそうとしているのではないのでしょうか? 原発の推進政策をとってきた政府・電力会社・原発専門家が責任追及を逃れようとするための政治的な思惑が見て取れるのではないのでしょうか?

いくらマグニチュードでごまかそうとしても、2006年の国会の予算委員会で共産党議員から原発事故に関して「大津波・電源喪失・炉心溶融」など今回の原発事故を予測していたと思わせるような質問が取り上げられており、十分想定内であつたことがわかります。天災がきっかけの原発事故とは言え、十分想定内であつた事故を回避できなかったことは、対策を怠つたための人災と言えます。

阪神大震災以降、地震の活動期に入ったと言われている日本でいつまた巨大地震がおきるかわかりません。そして地震によって起きるかも知れない原発事故は、地域だけでなく日本そして地球規模に甚大な被害をもたらすものです。だからこそ想定内の事故対策も実施せず、事故後の対応も人災といえるような対応しか出来ない政府・電力会社・原発専門家が進めてきた原発は全て停止すべきです。

